

株主の皆様へ



目次

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。 さて、ここに当社グループ第69期事業年度の中間報告書をお届けするにあたり、 一言ご挨拶申しあげます。

当第2四半期(平成28年1月1日から平成28年6月30日まで)におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が継続し販売競争が激化する厳しい経営環境となりましたが、当社は引き続き、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する生命の道の教えに導かれる部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」に取り組みました。当第2四半期につきましては、アイテムコントロールの徹底や「厳撰100品」の拡販など、これまで取り組んできた戦略的な施策を更に精度を上げて推進するとともに、営業・生産が一体となった部門別製品戦略・営業戦略を展開し、高品質・高付加価値製品を更に充実強化して、低価格帯製品においても品質向上をはかるなど、営業部門がリードして、生産部門の技術によって品質を高めた製品群を開発し、これがお客様にしっかりと受け入れられた結果、売上拡大を実現するとともに、収益面においても大きく改善をはかることができました。

また、昨年来、東京証券取引所のコーポレートガバナンス・コードへの対応を進めてまいりましたが、その中で「21世紀のヤマザキの経営方針」を改定し、当社グループの事業経営のあるべき姿を求めて、方向付けをさせていただきました。今後、この「21世紀のヤマザキの経営方針」に従って、当社グループ全体の成長発展を期してまいります。(「21世紀のヤマザキの経営方針」は右頁に掲載)

下半期につきましては、お客様の節約志向が継続し厳しい経営環境となることが予測されますが、引き続き、営業・生産が一体となった部門別製品戦略・営業戦略を推進し、お客様に真に喜ばれる価値ある製品を提供して、業績向上を推進してまいります。

連結子会社のヤマザキ・ナビスコ(株)は、本年9月1日から商号を「ヤマザキビスケット株式会社」に変更して新たな出発をいたします。当社グループは総力を挙げて、ヤマザキビスケット(株)と一体となって事業を推進し、業績向上につとめてまいります。

また、現在、当社創業の地である千葉県市川市の市川工場跡地に、「山崎製パン株式会社総合クリエイションセンター(仮称)」(中央研究所、総合研修所、飯島藤十郎社主記念ホール)を建設し、本年12月1日のグランドオープンに向け準備を進めているところでございます。当社グループの技術革新のための研究開発拠点として、また将来を担う人材教育のための研修の場として有効活用をはかり、21世紀のヤマザキの前進基地としてまいります。

今後、当社グループー丸となって、新しい価値と新しい需要を創造し業績向上を 期してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻 を賜りますようお願い申しあげる次第でございます。

平成28年8月

代表取締役社長 後島延浩

経営基本方針

綱領

- (1) わが社は、企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、個人の尊厳と自由平等の原理に基づき、 困難に屈することのない勇気と忍耐とによって高い倫理的水 準に導かれる事業を永続させること。
- (2) われわれは、常に良きものへ向って絶えず進歩しつづけるため、各人が自由な決心に基づき、正しき道につき、断固として実行し、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進すること。

具体方針

- 1 最高の品質と最善のサービス(今日到達しうるベストクオリティー・ベストサービスの実践、実行、実証)を目標とし、品質は今到達しうる最高のものであり、新鮮であること。 それは製品、組織、仕事、工場、財産並びに設備のなかに表わさるべきこと。
- ② 充実した効率のよい積極的な組織体を作りあげ、そして維持拡充していくため、あらゆる可能の努力を注ぐこと。 その組織体の人々は、会社を信頼し、仕事が喜びであり、普通ではできない仕事を完遂することが個人的な願望にまでなっていること。
- 3 入手できる限りの、事業に独特な要求に適合した最善の設備と施設を備えること。

- この設備や施設の調達は、維持運営が経済的であることと会社の 組織に最も仕事をしやすい道具を与えるという二つの観点から考 えられること。
- ●産業界と一般社会との間に協力関係を創り出し、維持していくため、実行可能な一切のことを行なっていくこと。
- ・業務の遂行に関するすべての決定を行なうにあたって、常にその 一件を処理する上での便宜よりも、事業全体にとって何が正しい か、何が最善であるかを中心に考えること。
- ・顧客に接するときは、常に公明正大で、かつ相手が何を欲しているかを充分に考慮すること。
 配達や品質やサービスについては、その成果が最優秀なものにな
- 配達や品質やサービスについては、その成果が最優秀なものになるように努力すること。

21世紀のヤマザキの経営方針

当社は、21世紀の事業環境と社会の変化に対応するため、「企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進する」という山崎製パン株式会社の「経営基本方針(綱領および具体方針)」を改めて高く掲げると同時に、これを補完するものとして、「日々、お取引先からご注文いただいた品は、どんな試練や困難に出会うことがあっても、良品廉価、顧客本位の精神でその品を製造し、お取引先を通してお客様に提供する」というヤマザキの精神に導かれ、科学的根拠の上に立った食品安全衛生管理体制の上に築き上げる科学的・合理的・効率的な事業経営手法として、生命の道の教えに従ったすべての仕事を種蒔きの仕事から開始する部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を実践、実行、実証することで、新しい価値と新しい需要を創造し、社会の負託に応え社業を前進させることを21世紀のヤマザキの経営方針といたします。

事業経営の具体的遂行に当たっては、経営陣、管理職は、本物の5S・全員参加の5Sとピーター・ドラッカーの5つの質問を連動させる「2本立ての5S」を行うとともに、生命の道の教えに従った部門別製品施策・営業戦略をピーター・ドラッカーの5つの質問と連動させ、「私たちの使命は何ですか」(What is our mission?)と問うだけでなく「私の使命は何ですか」(What is my mission?)と問い、生産部門・営業部門一体となった業務を推進するとともに、内部管理体制を充実・強化して、各部門毎の自主独立の協力体制を構築いたします。また、「良品廉価・顧客本位の精神で品質と製品、サービスをもって世に問う」というヤマザキの精神と「知恵と知識によって変化に挑戦し、新しい価値と新しい需要を創造する」という生命の道を導く言葉によって日々の仕事の実践、実行、実証に励み、業績の着実な向上を期してまいります。

【平成28年5月24日改定】

当第2四半期における連結業績の概況

売上高 5,206 68 百万円 (対前年同期比 102.4%)

営業利益 194億58百万円(対前年同期比 150.8%)

経常利益 197億67百万円(対前年同期比 145.6%)

親会社株主に帰属する 93億 98百万円 (対前年同期比 235.5%)

当第2四半期の事業の概況

当第2四半期におけるわが国経済は、円高の進行や中国経済の減速の影響もあり景気は足踏み状態となり、個人消費は力強さを欠くものとなりました。

当業界におきましては、お客様の節約志向が根強い市 場環境の下で販売競争が激化する厳しい経営環境とな りました。

このような情勢下にありまして、当社グループは、品質 向上と新製品開発に積極的に取り組み、「厳撰100品」を 中心とした主力製品の拡販につとめ、高品質・高付加価 値戦略を推進するとともに、品質を向上させた値頃感の ある製品を発売するなど、営業・生産が一体となった部 門別製品戦略・営業戦略を推進してまいりました。

[セグメント別の状況は5頁から8頁のとおりです。]

通期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は景気の 先行き不透明感が広がり、個人消費は停滞感が増すこと が懸念されます。

当業界にありましては、お客様の生活防衛意識が高まるなかで節約志向が鮮明となり、更に厳しい経営環境になるものと思われます。

このような状況下にありまして、当社グループは、引き続き品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、「厳撰100品」を中心とした主力製品の取扱拡大をはかり、高品質・高付加価値戦略を推進するとともに、製品規格を充実させ値頃感のある製品提供につとめるなど、営業・生産が一体となった部門別製品戦略・営業戦略、小委員





会による「なぜなぜ改善」を推進し、業績向上につとめて まいります。

ヤマザキ・ナビスコ(株)は、モンデリーズ・インターナショナル・インクとのライセンス契約終了に伴い、平成28年9月1日をもってヤマザキビスケット(株)に商号変更し、新たに出発いたします。「チップスター」や「エアリアル」などの既存製品を継続販売するとともに、長年培った技術をもとに新たな製法を用いたクラッカー「ルヴァン」やサンドビスケットシリーズ「YBCスタンドパック」などの新製品を発売し、積極的に拡販してまいります。当社グループは総力を挙げて、ヤマザキビスケット(株)と一体となって事業を推進してまいります。

また、平成28年12月1日には、当社創業の地である市川工場跡地に「山崎製パン株式会社総合クリエイションセンター(仮称)」(中央研究所、総合研修所、飯島藤十郎社主記念ホール)のグランドオープンを予定しております。総合クリエイションセンター内の中央研究所においては、生産本部と一体となった製品開発に寄与する研究開発を強力に推進するとともに、総合研修所においては、21世紀のヤマザキの経営方針を中心とした研修体制を

整備して管理職研修や階層別研修を実施し、研究開発・ 人材育成の充実強化をはかる場として21世紀のヤマザキの前進基地といたします。飯島藤十郎社主記念ホールにおいては、地域に相応しい利用を通じて地元市川市や千葉県への社会貢献をはかるとともに、ヤマザキの創業の精神の充実強化のために有効活用してまいります。

さらに、当社グループー丸となって内部管理体制の充 実と業務の効率化をはかり、新しい価値と新しい需要を 創造して業績向上を期してまいります。

通期の連結業績見通し

売上高

1 3 5 1 0 億円 (対前期比 102.3%)

営業利益

340億円(対前期比 125.9%)

経営利益

350億円(対前期比 123.7%)

親会社株主に帰属する当期純利益

170億円(対前期比 153.2%)

【平成28年8月2日 業績予想を修正】





セグメント別の状況

食品事業 売上高 4,859億 1 3百万円 (対前年同期比 102.8%)



食パン部門 売上高502億86百万円 (対前年同期比 103.0%)

9.7%

食パンは、「ロイヤルブレッド」、「超芳醇」、「ダブルソフト」の3大ブランドを中心に、品質訴求による取扱拡大をはかるとともに、「ヤマザキゴールドシリーズ」の新製品「レーズンゴールド」、「チーズゴールド」がお客様の好評を得て大きく伸長したこともあり、数量・販売単価ともに上昇し好調な売上となりました。

אכעעיכיE





ほんのり甘くて、もっちりおいしい

超芳醇



Royal Bread

菓子パン部門 売上高1,820億14百万円 (対前年同期比 102.4%)

35.0%

菓子パンは、品質を向上したヤマザキ菓子パンや「ホワイトデニッシュショコラ」などのペストリーが伸長するとともに、4月から食材食パンの品質を向上した「ランチパック」が回復傾向となり、また、新製品「北海道産小麦のバターロール」の寄与により食卓ロールが伸長するなど、順調な売上となりました。





あんぱん



6.5%

ホワイトデニッシュ あんぱん ショコラ (ヤマザキ菓子パン)

和菓子部門 売上高339億91百万円 (対前年同期比 103.1%)

和菓子は、串団子や大福が堅調に推移し、「山崎謹製」 シリーズが伸長するとともに、中華まんの売上増に加え、 「生どら焼」などのチルド和菓子の寄与もあり、好調な売





生どら焼



串だんご



草大福



具たっぷり肉まん



セグメント別の状況

洋菓子部門 売上高665億8百万円 (対前年同期比 99.8%)

12.8%

洋菓子は、新製品の投入もあり「プレミアムスイーツ」が伸長 するとともに、2個入ケーキや2月にリニューアル発売した「まる ごとチョコバナナ」が好調に推移しましたが、売上は前年同期並 みに止まりました。



まるごとチョコバナナ



苺のショートケーキ

プレミアムスイーツ



ふんわりワッフル



生クリーム ロール



北海道産牛乳の カスタード& ホイップシュー

調理パン・米飯類部門 売上高721億14百万円(対前年同期比 105.8%)

ツナマヨネーズ



調理パン・米飯類は、㈱サンデリカにおいてコン ビニエンスストアチェーンとの取引が拡大し、大幅 な売上増となりました。



おかず墓の内弁当





てりやきバーガー



大きなサンド ミックス

製菓・米菓・その他商品類部門 売上高809億97百万円 (対前年同期比 103.4%)

15.5%

製菓・米菓・その他商品類は、ヤマザキ・ナビスコ㈱の「チップスター」、「エアリアル」などのスナックが大きく伸長するとともに、㈱不二家の「カントリーマアム」や「ホームパイ」が順調に推移し、好調な売上となりました。







ホームパイ



チップスター



エアリアル

ケット(株)の製品を掲載 しております。

流通事業 売上高 299億54百万円 (対前年同期比 95.5%)



※「チップスター」、「エアリアル」はヤマザキビス

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、当社グループの総力を 挙げて「ヤマザキベストセレクション」を中心にパン、和洋菓子、米飯、サンドイッチ、 調理麺の品質向上と新製品開発に取り組むとともに、デイリーホットベイクの強化につとめ、 キャンペーンを活用して店舗売上の増加をめざしました。また、デイリーヤマザキのリージョ ンと当社の各工場が一体となって店舗運営の改善や店舗開発につとめました。





デイリーホットコーナー

直営店の減少により 営業総収入は減少しま したが、直営店の重点 管理を拡大し収益改善 をはかったことにより、 収益面では回復傾向と なりました。

当第2四半期末の店舗数

1,567店

(前年同期末差 4店減)

●デイリーヤマザキ

1,247店

(前年同期末差 75店減)

●ニューヤマザキデイリーストア

275店

(前年同期末差 78店増)

●ヤマザキデイリーストアー **タア**・・

45店

(前年同期末差 7店減)

デイリーヤマザキ

最高の品質とおいしさを追求する ヤマザキゴールドシリーズ

「レーズンゴールド」 「チーズゴールド

ヤマザキゴールドシリーズは、厳選された原料と技術の粋をつくして、これまでにない品質とおいしさを実現した食パンです。

ヤマザキゴールドシリーズの新製品として本年発売した「レーズンゴールド」、「チーズゴールド」は、発売以来、多くのお客様からご好評をいただいております。

「レーズンゴールド」は、ふんだんに使用したレーズンの食感と豊かな 風味を存分に味わえるレーズンブレッドです。

「チーズゴールド」は、チェダーチーズとゴーダチーズを混ぜたダイス状のチーズをパン生地にたっぷり練りこんだチーズブレッドです。

通常の食パンに比べて小さい型に入れて焼き上げており、朝食をはじめ、様々なシーンで手軽にお召し上がりいただける、食べやすいサイズになっております。

また、当社独自の技術によって、"しっとり、もっちり"とした食感に仕上げておりますので、トーストすると、外はカリッと、中はしっとりとした食感をお楽しみいただけます。



















♪ ゆっくり味わいたくなりますね。

ヤマザキビスケット(株)が新たに出発します

●新社名□ゴ(和文)

ヤマザキビスケット株式会社

●新社名□ゴ (英文)

Yamazaki Biscuits Co.,ltd.

新ブランドマーク



ヤマザキ・ナビスコ(株)は、昭和45年の創業以来今日 まで、「お客様に価値ある製品を提供すること」をモッ トーに、安全・安心で高品質な製品をお届けしてまい りました。

このたび、平成28年9月1日より商号をヤマザキビ スケット㈱に変更し、新たに出発いたします。

今後も、常に新しさを追求し提供し続ける企業をめ



ざし、ヤマザキビスケット㈱は、「チップスター」、「エ アリアル1、「ピコラ」などの既存製品を継続販売する とともに、長年培った技術をもとに新たな製法を用い たクラッカー「ルヴァン」、「ルヴァンクラシカル」、サ ンドビスケットシリーズ「YBCスタンドパック」など の魅力ある新製品を発売してまいります。



Levain **CLASSICAL** 発酵種の風味が活きる 食事タイプのクラッカー





いろいろな食材と相性の良い 「ルヴァンクラシカル (ノントッピングソルト)」

STAND PACKS

サンドビスケットの新シリーズ

/BC STAND PACKS

andre







「レモンパック」

「エントリー」





「抹茶サンド」



さっくりとした

公益財団法人国際開発救援財団(FIDR)への支援

国際協力活動および緊急援助活動を推進しています

当社は、国際社会からの要請に応える社会貢献への取組みの一環として、開発途上国および自然災害被災地の人々がよりよい生活ができることを願い、公益財団法人国際開発救援財団(FIDR)への支援を通じ、国際協力活動と緊急援助活動を推進しております。

■FIDRへの支援

FIDRは、平成2年に当社創業者の故・飯島藤十郎社主が主たる基本財産を出捐して特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)を支援する目的で設立した民間の援助団体です。現在は、子どもの未来を育む「チャイルド・ケア」と「日本企業と日本人による国際協力の推進」をミッションに掲げ、開発途上国の人々の自立と地域の発展を目的とした国際協力援助事業と、国内外の災害発生時における緊急援助事業を実施しております。

現在は、カンボジア、ベトナム、ネパールで、医療、保健衛生、教育、農業、収入向上などの分野において、地域に根ざした援助活動を行っております。また、東日本大震災の被災地の方々への復興支援を継続するとともに、本年4月に発生した熊本地震への緊急援助活動を行っており、当社はこれらの活動を積極的に支援しております。

=FIDRのネパールでの援助活動

FIDRは、ネパールにおいて、山間部の厳しい生活環境のなかで暮らす人々の生活向上支援を実施しております。FIDRが支援を行う地域は、国内でも特に貧困世帯の割合が高く、食料不足や子どもの栄養不良などの課題を抱えています。FIDRは、住民自らが地域の課題を解決できるように、教育と地域コミュニティーの強化に取り組んでおり、住民が共同して掘削する農業用ため池の設置を支援するなど、乾季における食料の確保と作物の販売による収入の向上につなげております。

昨年4月、ネパール中部を震源とする大地震が発生し、現地では多くの家屋や学校などの施設が損壊しました。FIDRは、地震発生後直ちに緊急食糧の供給などの援助活動を行いました。現在は、地震で倒壊した学校5校の再建支援など、教育環境の回復にも取り組んでおります。



野菜栽培に利用するため、設置を進めている農業用ため池 (ネパール ダーディン郡)

■熊本地震への緊急援助活動

当社の緊急援助活動

本年4月14日に発生した熊本地震では、家屋の倒壊やライフラインの寸断など大きな被害が生じました。当社でも熊本工場の建物と設備の一部に被害が生じましたが、生産設備を床に固定するなどの耐震策を実施していたことから、早期に稼働を再開させることができました。当社は、地震発生の翌日より、道路や橋梁が各地で寸断されるなか、お取引先への配送を行うとともに、各



緊急食糧を積載し被災地に到着する 配送車(熊本県益城町)

自治体と連携し、被災地 へパンやおにぎりなどの 緊急食糧を供給しまし た。さらに、当社は、寄 附金を拠出するとともに ヤマザキ「ラブ・ローフ」 募金活動を通じて、 FIDRの緊急援助活動に 協力いたしました。

FIDRの緊急援助活動

FIDRは、2度にわたり 震度7の揺れに襲われた 熊本県益城町に建設さ れた仮設住宅約220世 帯に対し、入居後すぐ に必要とされる冷蔵庫 と洗濯機を提供するな どの支援活動を行いま した。



仮設住宅に提供された冷蔵庫と 洗濯機(熊本県益城町)

FIDRの援助活動は、FIDRの法人賛助会員、個人 賛助会員など多くの方々のご支援を受けて実施し ております。

FIDRの活動の詳細、支援方法などにつきましては、 下記のホームページで紹介しております。

http://www.fidr.or.jp/

ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金への協力

当社グループは、FIDRとWVJが共催・実施しているヤマザキ「ラブ・ローフ」募金に協力し、約4,500の販売店に募金箱を設置しております。これまでの募金はFIDRとWVJを通じて、アフリカやアジアの開発途上国での援助活動などに役立てられております。

地震や台風など大規模な自然災害の発生時には緊急援助募金活動も行っており、東日本 大震災、熊本地震、フィリピン台風やネパール大地震などの国内外の被災地での活動に迅 速かつ有効に活用されております。



貸借対照表のポイント

流動資産

現金及び預金が120億38百万円増加し、受取手形及 び売掛金が241億48百万円減少したこと等により、 流動資産合計で136億8百万円減少し、2,440億61百 万円となりました。

有形・無形固定資産

有形固定資産は、償却が進んだこともあり27億5百万円減少、また無形固定資産は、のれんの償却等により19億62百万円減少し、有形・無形固定資産合計は3,158億45百万円となりました。 当第2四半期の設備投資額は、品質向上のための生産

当第2四半期の設備投資額は、品質向上のための生産 設備の更新等で152億10百万円、減価償却実施額は 175億57百万円であります。

投資その他の資産

株式相場の下落により投資有価証券が減少したこと 等により91億40百万円減少し、1,136億74百万円と なりました。

負債合計

仕入債務等の減少や借入金の約定返済により、負債合計 は281億2百万円減少し、3,772億79百万円となりました。

純資産合計

その他有価証券評価差額金が57億40百万円減少しましたが、利益剰余金が58億87百万円増加したこともあり、純資産合計は6億85百万円増加し、2,963億円となりました。

第66期

四半期連結貸借対照表(要旨)

科目	当第2四半期末	前期末	増減
14 🗖	平成28年6月30日現在	平成27年12月31日現在	<i>≯</i> 目 // 火 ,

(単位:百万円)

平成28年6月30日現在	平成27年12月31日現在	·自 //%	
244,061	257,669	△13,608	
429,519	443,328	△13,808	
293,563	296,269	△2,705	
22,281	24,243	△1,962	
113,674	122,815	△9,140	
673,580	700,997	△27,416	Ī
			Ī
221,124	240,005	△18,881	
156,155	165,376	△9,221	
377,279	405,382	△28,102	
266,164	260,302	5,862	
11,014	11,014	_	
9,676	9,676	_	
246,368	240,481	5,887	
△895	△870	△25	
6,967	11,981	△5,013	
23,168	23,331	△162	
296,300	295,614	685	
673,580	700,997	△27,416	
	244,061 429,519 293,563 22,281 113,674 673,580 221,124 156,155 377,279 266,164 11,014 9,676 246,368 △895 6,967 23,168 296,300	429,519 443,328 293,563 296,269 22,281 24,243 113,674 122,815 673,580 700,997 221,124 240,005 156,155 165,376 377,279 405,382 266,164 260,302 11,014 11,014 9,676 9,676 246,368 240,481 △895 △870 6,967 11,981 23,168 23,331 296,300 295,614	244,061 257,669 △13,608 429,519 443,328 △13,808 293,563 296,269 △2,705 22,281 24,243 △1,962 113,674 122,815 △9,140 673,580 700,997 △27,416 221,124 240,005 △18,881 156,155 165,376 △9,221 377,279 405,382 △28,102 266,164 260,302 5,862 11,014 11,014 — 9,676 9,676 — 246,368 240,481 5,887 △895 △870 △25 6,967 11,981 △5,013 23,168 23,331 △162 296,300 295,614 685

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

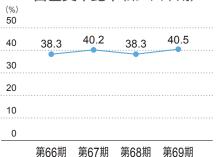
総資産・純資産(第2四半期) ■総資産 ■純資産 (百万円) 800,000 673.580 677,052 645.447 642.077 600,000 400.000 296,300 280.313 281.925 **26**8.612 200.000 0

第68期

第69期

第67期





損益計算書のポイント

売上高 -

パン類や和菓子、調理パン・米飯類が好調に推移したこともあり、前年同期に比べ2.4%の増収となりました。

営業利益

増収と営業・生産一体となった部門別製品戦略・営業戦略の推進により販促費用が減少したこともあり、前年同期に比べ50.8%の増益となりました。

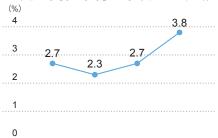
経常利益

前年同期に比べ45.6%の増益で、売上高経常利益率は3.8%となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

増収と税負担の減少もあり、前年同期に比べ135.5% の増益となりました。

売上高経常利益率(第2四半期)



第66期 第67期 第68期 第69期

四半期連結損益計算書(要旨)

科目	当第2四半期 平成28年1月1日から 平成28年6月30日まで	前第2四半期 平成27年1月1日から 平成27年6月30日まで	増 減
- 売上高	520,668	508,652	12,016
売上原価	328,636	325,850	2,786
売上総利益	192,031	182,801	9,229
販売費及び一般管理費	172,572	169,901	2,671
一 営業利益	19,458	12,900	6,558
営業外収益	1,483	1,532	△49
営業外費用	1,174 860		314
- 経常利益	19,767 13,573 6		6,194
特別利益	益 644 51		593
特別損失	1,881 1,387 4		494
税金等調整前四半期純利益	18,530	12,237	6,293
法人税等	8,587	8,123	464
四半期純利益	9,943	4,113	5,829
非支配株主に帰属する四半期純利益	544	122	421
一 親会社株主に帰属する四半期純利益	9,398	3,991	5,407

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位: 百万円)

科目	当第2四半期 平成28年1月1日から 平成28年6月30日まで	前第2四半期 平成27年1月1日から 平成27年6月30日まで	増減		
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,102	35,199	9,902		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,300	△18,106	1,806		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,351	△15,387	35		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△152	112	△265		
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	13,297	1,817	11,479		
現金及び現金同等物の期首残高	108,716	112,181	△3,465		
現金及び現金同等物の四半期末残高	122,013	113,999	8,014		

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

四半期貸借対照表(要旨)

単位:百万円	i円.
--------	-----

四十初其旧水流仪(安日)				
科目	当第2四半期末 平成28年6月30日現在	前期末 平成27年12月31日現在	増 減	
資産の部				
流動資産	147,513	154,537	△7,023	
固定資産	358,519	369,489	△10,969	
有形固定資産	190,747	193,961	△3,213	
無形固定資産	7,691	8,799	△1,107	
投資その他の資産	160,080	166,728	△6,648	
資産合計	506,032	524,026	△17,993	
負債の部				
流動負債	145,833	156,563	△10,729	
固定負債	95,737	101,528	△5,791	
負債合計	241,570	258,092	△16,521	
純資産の部				
株主資本	242,692	238,600	4,091	
資本金	11,014	11,014	_	
資本剰余金	9,676	9,676	_	
利益剰余金	222,897	218,780	4,116	
自己株式	△895	△870	△25	
評価・換算差額等	21,769	27,332	△5,563	
純資産合計	264,461	265,933	△1,471	
負債純資産合計	506,032	524,026	△17,993	

⁽注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	-		
科目	当第2四半期 平成28年1月1日から 平成28年6月30日まで	前第2四半期 平成27年1月1日から 平成27年6月30日まで	増減
売上高	369,213	359,150	10,063
売上原価	244,488	240,306	4,182
売上総利益	124,724	118,843	5,881
販売費及び一般管理費	111,516	109,741	1,774
営業利益	13,208	9,102	4,106
営業外収益	2,111	2,317	△205
営業外費用	891	615	275
経常利益	14,428	10,803	3,624
特別利益	641	13	628
特別損失	1,403	1,011	391
税引前四半期純利益	13,666	9,805	3,861
法人税等	6,038	5,980	57
四半期純利益	7,627	3,824	3,803

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

YAMAZAKI インフォメーション

単元株式数変更のご案内

株主・投資家の皆様により投資しやすい環境を整えるため平成28年7月1日をもって単元株式数を1.000株から100株に変更いたしました。

- Q 株主側で必要な手続きはありますか?
- A 株主様に行っていただく特段のお手続きはありません。
- 単元引下げ後の株主優待制度は?
- A これまでと同様、当社株式1,000株(新単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象といたします。

株主優待情報

株主様の日頃のご 支援にお応えするため、毎年12月31日 現在の株主様(ご所 有株式数1,000株 以上)に対し、市価 3,000円相当の自 社製品の詰め合わせ を毎年4月にお届け いたします。



※写真は本年4月にお届けしたものです。

ヤマザキ ~「秋のおいしいキャンペーン」~

平成28年9月1日 (木)から11月15日 (火)までの期間中、ヤマザキ「秋のおいしいキャンペーン」を実施いたします。



対象製品についている点数券を集めてご応募いただくと、抽選で総計43,000名様に素敵な賞品をプレゼントいたします。詳しくは対象製品のパッケージまたは当社ホームページをご覧ください。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、製品情報やおすすめのレシピなど、さまざまな情報を公開しています。



http://www.yamazakipan.co.jp/

株式の状況 (平成28年6月30日現在)

株式の状況

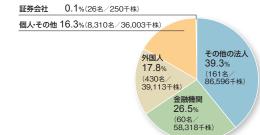
発行	亍可怠	能 株 式	総数	800,000,000株
発:	行 済	株 式	総 数	220,282,860株
株	主	総	数	8,987名 (前期末比646名減)
				(前期末比646名減)

大株主(上位10名)

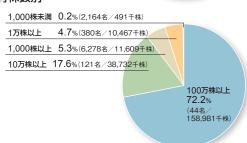
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	15,108,895	6.8
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	5.6
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.0
三菱商事株式会社	9,849,655	4.4
住友商事株式会社	9,355,000	4.2
丸紅株式会社	8,165,880	3.7
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,157,000	2.3
飯島和	4,494,000	2.0
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	4,253,396	1.9

株式分布状況

●所有者別



●所有株数別



役員・従業員 (平成28年6月30日現在)

役員

代表取締役社長	飯島 延浩	常務取締役	深澤、忠史
取締役副社長	山田憲典	常務取締役	園田 誠
専務取締役	吉田 輝久	取 締 役	荘司 芳和
専務取締役	丸岡 宏	取 締 役	原田 明夫 (社外取締役)
専務取締役	飯島 幹雄	取 締 役	畑江 敬子(社外取締役)
常務取締役	横濱 通雄	常 勤 監 査 役	大本 一弘
常務取締役	会田 正久	常 勤 監 査 役	松田 道弘 (社外監査役)
常務取締役	犬塚 勇	常勤監査役	吉田谷良一
常務取締役	関根 治	監 査 役	村上 宣道(社外監査役)
常務取締役	飯島佐知彦	監 査 役	齋藤 昌男(社外監査役)

従業員

連 結 27,319名 (男性21,140名、女性6,179名)

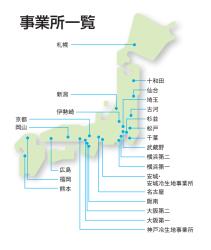
当 社 18,612名 (男性15,018名、女性3,594名)

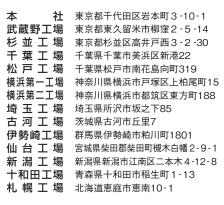
グループ概要 (平成28年6月30日現在)

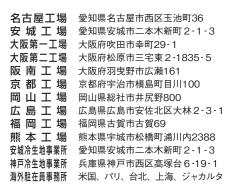
重要な子会社

会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	53.9	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造及び販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造及び販売
ヤマザキ・ナビスコ株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造及び販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	480	100.0	ベーカリーカフェの経営
株式会社東八卜	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造及び販売
株式会社イケダパン	1,250	80.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造及び販売
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造及び販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc. (米国)	5,000∓US\$	100.0	ベーカリー製品の製造及び販売並びにベーカリーカフェの経営
株式会社ヴイ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地の製造及び販売並びにインストアベーカリーの経営
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造及び販売
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造及び販売
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造及び販売
株式会社末広製菓	100	100.0	米菓、調理パン、米飯類等の製造及び販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティックス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理及び工事の請負

- (注) 1. ヤマザキ・ナビスコ(株)は、平成28年9月1日付で商号をヤマザキビスケット(株)に変更いたします。
 - 2. 大徳食品㈱は、㈱サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。
 - 3. ㈱サンロジスティックスは、当社と㈱ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。
 - 4. 連結子会社は、上記重要な子会社16社を含む28社であります。







株主メモ

事業年度毎年1月1日から12月31日まで

期末配当の基準日 毎年12月31日

定時株主総会 毎年3月

定時株主総会の基準日 毎年12月31日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

公 告 方 法 電子公告によるものとし、当社のホームページ (http://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/)

に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない

場合は、日本経済新聞に掲載します。

株式の上場 東京証券取引所市場第1部

株式に関するお手続き

株式に関する各種お手続き(住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。

当社の単元株式数は、平成28年7月1日をもって1,000株から100株に変更いたしました。

- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種お手続き(証券会社の口座への振替(※)、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。
 - (※) 証券会社の口座への振替について

特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。

- ・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。
- ・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種お手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。

- ◎ ホームページアドレス http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
- ●未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。